

2025年12月6日(土)

研究班企画

■ 2025年12月6日(土) 16:10 ~ 17:30 ▲ 第5会場(4F GALLERY)

[1UDX502-02] 輸血検査研究班企画

座長:中村 裕樹

16:10 ~ 17:30

[KHK1]

細胞治療領域で未来の臨床検査技師に求められるビジョン

ひらかれる臨床検査の新しいフィールド

*水村 真也¹、高橋 典子²、五十嵐 靖浩³ (1.虎の門病院輸血・細胞治療部 細胞治療科 2.がん研究センター中央病院
臨床検査科 輸血管理室 3.慶應義塾大学病院 臨床検査技術室 輸血・細胞療法センター)

2025年12月7日(日)

研究班企画

■ 2025年12月7日(日) 13:30 ~ 14:50 ▶ 第5会場(4F GALLERY)

[2UDX503-03] 公衆衛生検査研究班企画

座長:星本 淳吉

13:30 ~ 14:50

[KHK2]

採血室の運用と工夫

~ みんなの施設ではどうしていますか ~

*谷中洋平¹、藤森祐多²、堀智美³、伊藤正範⁴ (1. 東京医科大学八王子医療センター 2.慶應義塾大学病院 臨床検査技術室 3.自衛隊中央病院 4.新宿健診プラザ 健診部)

研究班企画

■ 2025年12月7日(日) 13:30 ~ 14:50 ▶ 第6会場(6F カンファレンスroomA/B)

[2UDX603-03] 遺伝子・染色体検査研究班企画

座長:中島 昌哉

13:30 ~ 14:50

[KHK3]

染色体・遺伝子関連検査の学習・育成ポイント

講義1 染色体検査の学習・育成ポイント

講義2 PCRを中心とした遺伝子関連検査の学習・育成ポイント

講義3 NGSを中心とした遺伝子関連検査の学習・育成ポイント

*青木 舞¹、土屋 浩二²、渡邊 佳織³ (1. 日本大学医学部附属板橋病院 2.順天堂大学医学部附属順天堂医院 3.国立がん研究センター中央病院)

研究班企画**■ 2025年12月6日(土) 16:10 ~ 17:30 ▲ 第5会場(4F GALLERY)****[1UDX502-02] 輸血検査研究班企画**

座長:中村 裕樹

16:10 ~ 17:30

[KHK1]

細胞治療領域で未来の臨床検査技師に求められるビジョン

ひらくれる臨床検査の新しいフィールド

*水村 真也¹、高橋 典子²、五十嵐 靖浩³ (1. 虎の門病院輸血・細胞治療部 細胞治療科 2.がん研究センター中央病院 臨床検査科 輸血管理室 3.慶應義塾大学病院 臨床検査技術室 輸血・細胞療法センター)

研究班企画

■ 2025年12月6日(土) 16:10 ~ 17:30 ▲ 第5会場(4F GALLERY)

[1UDX502-02] 輸血検査研究班企画

座長:中村 裕樹

16:10 ~ 17:30

[KHK1] 細胞治療領域で未来の臨床検査技師に求められるビジョン

ひらかれる臨床検査の新しいフィールド

*水村 真也¹、高橋 典子²、五十嵐 靖浩³ (1. 虎の門病院輸血・細胞治療部 細胞治療科 2.がん研究センター中央病院 臨床検査科 輸血管理室 3.慶應義塾大学病院 臨床検査技術室 輸血・細胞療法センター)

血液細胞（幹細胞等）に関する操作は法改正前よりタスク・シフト/シェアが推進され、血液製剤や細胞治療の管理等に関する専門的な知識・技術を有する臨床検査技師を積極的に活用することが推奨されている。細胞治療領域の業務は臨床検査技師の担う業務の中では比較的認知度が低い分野と思われるが、細胞治療全体を通して臨床検査技師の役割は重要で、未来の臨床検査技師にとっても希望とやりがいのある分野なのではないかと考える。本シンポジウムでは、普段輸血・細胞治療にあまり携わっていない方にも細胞治療領域の業務をより身近に感じてもらうこと、また、今後細胞治療領域へ参入するご施設の参考にしていただけることを目指し「細胞治療関連検査」「細胞の採取・調製・管理」「再生医療等製品と臨床検査技師の関わり」の3つのテーマで解説する。

【演題1：細胞治療関連検査－造血幹細胞移植関連検査の特徴と解説－】造血幹細胞移植後、患者体内ではどのように血球が入れ替わるのか。血液型の経時的な変化、輸血製剤の選択と必要な検査等、造血幹細胞移植に関連する検査と結果の特徴について解説する。

【演題2：細胞の採取・調製・管理－細胞治療と臨床検査技師の仕事－】細胞の採取・調製・管理の現場で臨床検査技師はどのような業務を行っているのか。細胞採取、細胞治療用製剤の保管方法、製剤の解凍輸注、CAR (キメラ抗原受容体)-T細胞療法など細胞治療の現場における臨床検査技師の業務や他職種との関わりを現場の写真や動画を用いて解説する。

【演題3：再生医療等製品と臨床検査技師の関わり－新しい管理体制の構築－】細胞治療の現場でなぜ臨床検査技師が重宝されるのか。再生医療に関する3つの法律が2013年から2014年にかけて施行され、再生医療等製品を取り扱う現場では医薬品と同等の品質保証が要求されるようになった。ISO 15189を通じQMSの概念を理解する臨床検査技師は、各施設でGMP/GCTPやFACT-JACIEの概念、ISO 9001に準じた文書を管理し、細胞治療を実施するための環境や体制を整備・構築している。再生医療等製品を取り扱うため我々臨床検査技師に求められてきた役割、未来のビジョンについて解説する。

研究班企画**■ 2025年12月7日(日) 13:30 ~ 14:50 ■ 第5会場(4F GALLERY)****[2UDX503-03] 公衆衛生検査研究班企画**

座長:星本 淳吉

13:30 ~ 14:50

[KHK2]

採血室の運用と工夫

～ みんなの施設ではどうしていますか ～

*谷中洋平¹、藤森祐多²、堀智美³、伊藤正範⁴ (1. 東京医科大学八王子医療センター 2.慶應義塾大学病院 臨床検査技術室 3.自衛隊中央病院 4.新宿健診プラザ 健診部)

研究班企画

■ 2025年12月7日(日) 13:30 ~ 14:50 ▲ 第5会場(4F GALLERY)

[2UDX503-03] 公衆衛生検査研究班企画

座長:星本 淳吉

13:30 ~ 14:50

[KHK2] 採血室の運用と工夫

～ みんなさんの施設ではどうしていますか ～

*谷中洋平¹、藤森祐多²、堀智美³、伊藤正範⁴ (1. 東京医科大学八王子医療センター 2. 慶應義塾大学病院 臨床検査技術室 3. 自衛隊中央病院 4. 新宿健診プラザ 健診部)

採血室は、臨床検査技師が患者と接する重要な場であり、医療の質や安全性、さらには患者満足度に直結する部門である。そのため、採血の正確性はもちろんのこと、待ち時間の短縮や動線の工夫、患者対応、スタッフ教育など、様々な視点からの改善が求められている。

公衆衛生検査研究班では、初級研修会として新人の方やこれから採血業務に携わる方に向け、これまでに採血に関する研修会を企画・実施してきたが、その際、多くの参加者から「他施設ではどうしているのか」「現場での工夫や改善例を知りたい」といった声が多数寄せられ、採血業務への関心と課題意識の高さを感じた。こうした背景を受けて、今回のシンポジウム「採血室の運用と工夫～みんなさんの施設ではどうしていますか～」を企画した。

本シンポジウムでは、規模や診療体制の異なる複数の医療機関より、普段採血業務に携わっている臨床検査技師をシンポジストとしてお招きし、各施設における採血室の運用実態や工夫、課題解決に向けた取り組みをご紹介していただく。

また、後半には総合討論の場を設け、登壇者と聴講者が一体となって、日々の疑問や悩みをもとに意見交換を行う。採血困難者や外国人患者など患者対応についての運用、神経損傷などの患者急変時や針刺し事故発生時の対応、高Ht患者の凝固採血、EDTA凝集のある患者の検体処理について、新人への採血教育、タスクシフトの実施についてなど、他施設のさまざまな工夫や課題を共有する場にしたい。自施設での改善や新たな視点の獲得につながることを期待している。本シンポジウムが明日からの業務の一助になれば幸いである。

研究班企画

■ 2025年12月7日(日) 13:30 ~ 14:50 ■ 第6会場(6F カンファレンスroomA/B)

[2UDX603-03] 遺伝子・染色体検査研究班企画

座長:中島 昌哉

13:30 ~ 14:50

[KHK3]

染色体・遺伝子関連検査の学習・育成ポイント

講義1 染色体検査の学習・育成ポイント

講義2 PCRを中心とした遺伝子関連検査の学習・育成ポイント

講義3 NGSを中心とした遺伝子関連検査の学習・育成ポイント

*青木 舞¹、土屋 浩二²、渡邊 佳織³ (1. 日本大学医学部附属板橋病院 2.順天堂大学医学部附属順天堂医
院 3.国立がん研究センター中央病院)

研究班企画

■ 2025年12月7日(日) 13:30 ~ 14:50 ▲ 第6会場(6F カンファレンスroomA/B)

[2UDX603-03] 遺伝子・染色体検査研究班企画

座長:中島 昌哉

13:30 ~ 14:50

[KHK3] 染色体・遺伝子関連検査の学習・育成ポイント

講義1 染色体検査の学習・育成ポイント

講義2 PCRを中心とした遺伝子関連検査の学習・育成ポイント

講義3 NGSを中心とした遺伝子関連検査の学習・育成ポイント

*青木 舞¹、土屋 浩二²、渡邊 佳織³ (1. 日本大学医学部附属板橋病院 2.順天堂大学医学部附属順天堂医院 3.国立がん研究センター中央病院)

近年、遺伝子関連検査は臨床現場において急速に普及している。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行により、PCRをはじめとする核酸増幅検査が多くの医療機関で導入され、遺伝子関連検査の重要性と認知度は飛躍的に高まった。これを契機に、検査体制の拡大を検討する施設も増えてきている。さらに、自動化装置の開発が進み、簡便に検査が可能となったことから、遺伝子関連検査の普及は一層加速すると考えられる。加えて、がんゲノム医療において、固形がんおよび造血器腫瘍に対して次世代シーケンサー(NGS)による遺伝子パネル検査が保険収載され、臨床での活用範囲はさらに広がっている。一方、従来から実施されているG分染法やFISH法による染色体検査は、先天性疾患や造血器腫瘍の診断において重要な検査となっている。近年、マイクロアレイ染色体検査が保険収載され、G分染法やFISH法では検出できない微細な染色体異常を検出可能であり、先天性疾患の診断精度の向上に寄与している。

このような遺伝子関連検査の普及と需要の高まりを背景に、染色体・遺伝子関連検査を学ぼうとする臨床検査技師が増えてきている。しかし、他の検査分野と比較すると研修会や実技講習、教材などの教育コンテンツが少なく、自己研鑽に苦慮するケースも少なくない。

そこで本企画では、染色体検査、遺伝子関連検査に携わる経験豊富な臨床検査技師に登壇いただき、自身の経験をもとに、どのように自己研鑽を重ねて知識・技術を深めてきたのかを紹介いただく。また、本学会のテーマである「ミライへの継承」にちなみ、後進育成の取り組みについても講演いただく予定である。

これから染色体・遺伝子関連検査を学ぶ方や知識・技術をさらに深めたい方、そして後進育成に携わる方にとて、本企画が日々の実務や学びの参考となり、染色体・遺伝子関連検査の知識や技能を次世代へつなぐ道しるべとなれば幸いである。